

「ヴォイス」 Voice



▲被災者のために「何かできることはないか」との、生徒たちの思いで始められた募金活動(三好ヶ丘駅)

間もなく、東日本大震災の発生から1年を迎えます。

最近では、被災地に関する報道なども減ってきており、現地の様子を目にする機会が少なくなつたように感じています。一方、被災地でのボランティア活動者数も、ピーク時の10分の1まで減つたともいわれています。17年前の阪神淡路大震災では、1日当たりのボランティア活動者数は、発生直後の2万人をピークにして、1年後ではおよそ700人まで減少しています。

今回は、震災を風化させないためにも、これまでの市民の皆さまの活動やみよし市の取り組みなどを、あらためて紹介することで、市民の皆さまにも今一度、防災・減災について考えていただきたいと思います。

義援金・ボランティア活動

●義援金…市役所内7カ所の窓口や市立保育園、サンアート、市民病院などの公共施設に設置した義援金箱には、1月31日現在で17,209,323円のご協力をいただきました。また、8月に開催した夏祭りにおける協賛金の一部や商工会女性部の募金活動による義援金として2,384,288円を中日新聞社会事業団を通じ、被災地へと届けさせていただきました。

●ボランティア活動…みよし市では、3月に乾パンや紙おむつなど7品目を募集し、

皆さんからたくさんの方の支援物資の提供をいただきました。また、6月から7月の期間には支援活動として3班、延べ59人の皆さんに、被災地でのがれきの除去や排水路の清掃、民家の泥出しなどに従事していただきました。

12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月
・消防団年末夜警、女性消防団防火パトロール	・避難所生活体験(三好丘中学校)	・防災教室(打越保育園)	・炊き出し訓練(三好高校) 元気袋を届けよう(老人連合会)	・お泊り防災体験(三好上行政区) 防災訓練(市内一斉)	・復興支援ボランティア活動	・復興支援ボランティア活動 三好高校生徒会による募金活動	・水防訓練	・消防団任命式	・日本赤十字社愛知県支部みよし市地区(福祉課内)による義援金受け付け開始 三好丘中学校3年生有志による募金活動(三好ヶ丘駅) 支援物資(7品目)受け付け

※まちの話題(ホームページ)より抜粋

●その他、皆さんの中には、個人で民間のボランティアツアーに参加した人や勤務先からの復興支援活動として、被災地に赴かれた人もたくさんいると思います。そこで体験したことを家族や地域の皆さんに伝えるなどして、地域防災に生かしていただきたいと思います。



▲給水車と簡易水道を使って、炊き出し訓練を体験した子どもたち(三好上子ども会)



▲園児たちは、尾三消防署員から災害発生時の避難方法などを学んだ(打越保育園)

連載第102回



ミサンガに思いを込めて

3月は桃の節句。しかし、東北地方はまだまだ冬の装い。「3・11」あの悲惨な出来事から、間もなく1年が経過しようとしています。今年の冬は寒さが厳しい上、雪も多く、ボランティアの数も一時期より減ってきているとのこと。被災地の苦労の様子が報道を通して伝わってきます。1年もたつとあの衝撃的な出来事も、だんだんと記憶の片隅に追いやられていくのが人間の常ですが、東日本大震災を決して忘れることはできません。われわれが、どのような形で復興に携わることができ、しっかりと考えるときでもあります。少し暖かくなり雪も溶ければ、新たな気持ちでボランティア活動に参加してくれる人たちも増えることを期待しています。みよし市も社会福祉協議会を通じて、一体感を持ちながら前向きに取り組んでいきます。

市職員の派遣は全国市長会を通し、新たに584人の要請がありました。その半分程度しか応募がなく追加募集中です。本市からは2人の職員が手を

挙げてくれました。1人は3カ月間、もう1人は1年間の長期派遣、2人も家庭や仕事の都合もあり、難しい判断だったと思いますがよく応募してくれました。4月からの派遣なので、厳しい人事配置になりますが、2人の分まで残った職員でカバーしていきます。2月4日、復興支援ボランティア参加者たちを始め、多くの人たちが集まって、ボランティア特別講演と題して行われた被災地での活動状況発表会、とても有意義な会となりました。ボランティアが個々のつながりを強くするきっかけとなり、さらに多くの人が共鳴してくれることを期待します。

この会の最後には、NPO愛知ネットが応援している「三陸に仕事を！プロジェクト」として、浜の女性たちが魚網を編み込んで作った、「浜のミサンガ(環)」が紹介されました。これは2本セットで1,100円、その内576円が作った人に直接渡るシステムとなっているため、被災地から遠く離れた私たちでも、直接応援することができます。私も復興を願う支援の気持ちを、このミサンガに託します。

みよし市長

久野 知英

職員派遣

●みよし市(一部事務組合などを含む)では、全国市長会や愛知県、近隣市町村などと連携を取りながら、被災した自治体への職員派遣を継続的に実施しています。

派遣職員	人数	期間	場所	主な活動内容
保健師	1	4月13日～18日	岩手県 おひつちやう 大槌町	避難所での健康サポート(愛知県保健活動チーム) (※)運転などの支援活動
一般事務(※)	2			
保健師	1	7月7日～14日	宮城県 せんだいし 仙台市	り災証明発行の事務
一般事務	1	5月6日～13日		
	3	10月9日～17日		
みよし市社会福祉協議会	1	5月6日～13日	岩手県 おひつちやう 大船渡市	生活福祉資金貸付業務の支援(愛知県社会福祉協議会)
	1	6月10日～17日		
尾三消防本部	40	3月12日～4月6日	宮城県 むたりのちやう 巨理町	生存者の検索・救助活動、救急搬送(愛知県緊急消防援助隊)
愛知中部水道企業団	24	3月18日～4月17日	岩手県 いしのまきし 石巻市	応急給水支援活動(日本水道協会愛知県支部)

まとめ

●政府の地震調査委員会による最新の発表では、東海地震の30年以内の発生確率が1ポイント増えて88%、南海地震の10年以内の発生確率が20%程度と、それぞれ上昇しています。また、東南海地震の30年以内の発生確率は70%程度で従来と同じでした。しかし、地震がいつ起こるかは誰にも分かりません。みよし市でも、防災・減災に向けた取り組みを継続的に実施していきます。市民の皆さまには、ご家庭での備えを万全にしていたいただくとともに、被災地に向けた息の長いご支援をお願いします。



▲各市町から派遣された保健師は、避難所や各家庭を訪問して健康チェックや衛生対策でサポート(愛知県保健活動チーム)

3月5日(月)午前8時から、「ミニユニティFM、ラジオ・フリースト(78.6MHz)の「みよしモーニングニュース」で、久野市長がコラムの内容を話題に生出演します。